



くにたまの会会報

【第6号】

発行／くにたまの会
島根県出雲市大社町杵築東195
出雲大社社務所内
TEL：0853-53-3100

金刀比羅宮

「こんぴらさん、の名で親しまれている金刀比羅宮は、琴平山(象頭山)の中腹に鎮まります。小西可春編「玉藻集」延宝5年(1677)や、菊池武賢編「讚州府志」延享2年(1745)などには、それぞれ「この山の鎮座已に三千年に向づく」とあります。大物主神は、天照大御神の弟、建速素盞鳴の子、大国主神の和魂神で農業殖産、漁業航海、医薬、技芸など広汎な神徳を持つ神様として、全国の人々の厚い信仰を集めています。



ご挨拶

くにたまの会総裁
出雲大社宮司

千家尊祐

会員の皆様方に於かれましては、それぞれの奉務神社に於きまして日々のご奉仕を通じ、大神様の御神徳の宣揚と啓蒙にお努めになられており、国造りの大神として日本全国に広がる大神様に対する信仰の輪は、偏に皆様のお務めの御蔭であると感謝申し上げます。五月一日には新帝陛下が踐祚あそばされ、新たな「令和」の御代が開かれました。踐祚なさいました天皇陛下は歴代天皇に連綿と受け継がれた「国やすかれ 民やすかれ」と国の平安と民の安寧を日々お祈りであらわされています。その大御心に沿い奉るべく、国や宗教の壁を越えてさらに平和の祈りを重ねてまいりたいと存じます。私たちは「だいこくさま」にお仕える者として、大神様の「和譲」の精神に神習い、本会の活動を通じて誇りある日本の伝統・文化とその精神を継承してまいりました。これからも更なる御神縁の輪を広く結び、斯界の発展に寄与していくことが私たちの使命であります。

さて、出雲大社におきましてはこの度の御遷宮を『平成の大遷宮』と銘を打って取り組んでまいりましたが、奇しくも平成の御世とともに結びを迎えることが出来ました。これも偏にご神縁に結ばれる「くにたまの会」の皆様をはじめ、全国の多くの方々のお力添えの賜物であり、衷心より感謝申し上げます。

そしてまた、この度の御遷宮は新しい「令和」の御世の始まりを規を一にして、次への「つなぎ」の始まりでもあります。「令和の御世」と共に次の御遷宮に向け全力を挙げて取り組んでまいりますので、今後とも何卒お心寄せをいただきますようお願い申し上げます。

今後とも大国主大神様への信仰を通じて、その御神徳の宣揚と啓蒙に力を合わせ精進していければと念じております。それが聖上の安泰長久、御皇室並びに我が国の弥栄を磐石にするものとして、信じて、ご挨拶とさせていただきます。

平成三十年度 くにたまの会総会

於東京都神田神社

平成三十年七月九日、七月十日くにたまの会の第六回総会が東京都神田神社を会場として開催されました。平成三十年度総会は、五十一社八十二名の会員神社と関係者が参加し、お茶の水ホテルジュラクを会場として総会並びに研修会と懇親会が開催されました。



はじめに参加者全員で神田神社に正式参拝、千家尊祐総裁（出雲大社宮司）と吉田源彦理事長（北海道神

宮宮司）が玉串を奉り拝礼しました。総会では、出席者全員による神宮並びに奉務神社遙拝・国歌斉唱の後、千家尊祐総裁からの挨拶にて、来春には約二百年ぶりとなる御譲位による皇位継承が執り行われ、踐祚なされて以来、凡そ三十年に亘ってその御重責を一身に背負い、我が国の安泰と国民の平穏安寧を祈られてきた天皇陛下に心より感謝申し上げられ新たに御即位なさる新帝の大御世を一意専心お支えお護りするべく、今から身の引き締まる思いについて述べられました。続く議事は、廣瀬明正理事（荒井神社宮司）を議長として進行され、事務局より会計報告として平成三十年度事業報告及び予算決算報告、平成三十一年度の事業計画及び予算案が提示・審議され、いずれも賛成多数により承認されました。また、前年度より引き続きいる事業の経過報告として、ホームページ制作について会員神社からの情報提供について改めて協力依頼がされました。更なる会員拡充へ向けた会員各位の取り組み強化が依頼されるとともに、具体的取り組みとして支部結成へ向けた動向については兵庫県支部結成されたことが報告されました。

研修会では、講師の小西美術工芸社 代表取締役社長 デービッド・アトキンソン氏より「日本を観光立国へ」神社の使命とは」と題してご講演を戴きました。アトキンソン氏は日本の観光業界・行政が売り物にする「おもてなし」が、外国人旅行者から見ると優先度が実は低いことや公衆トイレなどの環境整備が遅れていることに関して指摘されていました。これからの、神社界の使命を改めて考えさせられる有意義な時間となりました。



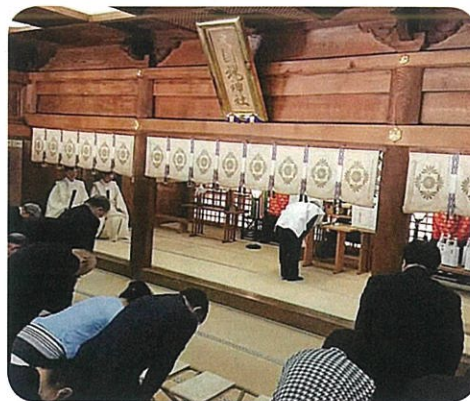
デービット・アトキンソン氏講演の様子

総会後、会場お茶の水ホテルジュラクで懇親会が催されました。開催地、出雲神社 宮田宮司の開会挨拶にはじまり、猿渡昌盛理事（大國魂神社宮司）より歓迎の挨拶があり、大鳥居信史様（神田神社宮司）のご発生による乾杯の後、普段顔を合わす機会の少ない会員同士互いに

親睦・交流を深め合い、会は終始和やかな笑い声に包まれました。会の最後に次年度の総会開催地について、三年に一度の出雲大社での開催されることが報告されました。翌日にはバスで大國魂神社へ向かい正式参拝を致しました。その後、深大寺を見学し昼食をとり解散しました。



深大寺の住職さんより説明をうける様子



大國魂神社 正式参拝の様子

令和元年度 くにたまの会総会

於 島根県 出雲大社

令和元年七月二十五日、くにたまの会の第七回総会が島根県出雲大社を会場として開催されました。

本年は、四十社五十三名の会員神社が参加し、出雲大社事務所を会場として総会並びに研修会が開催されました。

はじめに参加者全員で正式参拝、吉田源彦理事長（北海道神宮宮司）が玉串を奉り拝礼しました。その後、新庁舎前にて、参加された方々と写真撮影をおこないました。



総会では、永友謙二理事（都農神社宮司）による開会の辞の後、出席者全員による神宮並びに奉務神社遥拝・国歌斉唱の後、この一年間に帰幽された会員の物故者に対して黙祷を捧げました。出羽三山神社名誉宮司 緒方久信様をはじめご帰幽されました方々のご冥福をお祈り申し上げます。次に、出席された会員神社において、この一年間のご就任についての報告がされました。千家尊祐総裁からの挨拶では新帝陛下が踐祚され新たな「令和」の御代がはじまり天皇陛下に連綿と受け継がれた国の平安と民の安寧をお祈りになられている重要性について述べられました。

続く議事は、馬淵直樹理事（日吉大社宮司）を議長として進行され、事務局より会計報告として平成三十年事業報告及び予算報告、令和元年度の事業計画及び予算案が提示・審議され、いずれも満場意義なく承認されました。また、令和元年度より慶弔規定について新たに内規が盛り込まれ事務局より説明がなされました。さらに、令和元年度予算の補助を受け、「くにたまの会」の支部結成補助や魅力ある組織作りのため積み立てていく特別積立金の予算について事務局より報告がされました。また今回、事務局の怠慢により参加の呼びかけや会員拡充へ向けた取り組みをしていなかったことへのお詫びを申し上げます。今後は事務局や会員神社が一丸となり会員神社の拡充や支部結成へ向けての取り組みを強化していくことを申し上げます。



総会の様子（馬淵議長）



開会挨拶の様子（鈴木副理事長）

神（蚌貝比売命・赤貝・蛤貝比売命・蛤）と医薬にまつわる話では、貝の成分が火傷を治癒すること、檜皮古材を炭にして医大の病棟へ寄贈したお話から、神代から伝わっている薬と最先端の医療が結びついているとの見解も示されました。医薬や漢方にまつわるお話から、くにたま信仰の発展を考える上で有意義な講演を拝聴する機会となりました。

総会・研修会后、会場を出雲ロイヤルホテルへ移しての懇親会が開催されました。懇親会は、の鈴木寛治副理事長（大神神社宮司）の開会挨拶にはじまり、猿渡昌盛理事（大國魂神社宮司）の発声による乾杯の後、普段顔を合わす機会の少ない会員同士互いに親睦・交流を深め合い、会は終始和やかな笑い声に包まれました。

会員神社紹介

日向国一之宮

都農神社

【鎮座地】

宮崎県児湯郡都農町

大字川北一三二九四

【御祭神】

大己貴命



都農神社 御本殿

【御由緒】

檀原の宮にて御即位される六年前の神武天皇が、宮崎の宮を発し東遷の際、都農の地に立ち寄られた。その際、国土平安、海上安全、武運長久を祈念し、大己貴命をお祀りされ

た事がご創建の由来として伝えられている。

歴代皇室の尊崇篤く、仁明天皇の承和四年(八三七)には官社に列せられ、清和天皇の天安二年(八五八)には従四位が授けられる。又、後醍醐天皇の延長五年(九二七)の延喜式神名帳には日向国では四社が選録されているが、その中でも特に神階高い待遇を受け、日向国一宮となった。その後時代は下り、明治四年(一八七二)五月十四日には国から国幣小社に列せられている。



都農神社 参道

一般に大袋に打ち出の小槌の「大國さま」として知られているように、商売繁盛・縁結び、そして因幡の素兎の神話からも知られるように、病氣平癒の御神徳も篤い。歴代高鍋藩主も度々病氣平癒祈願に訪れている。

【例大祭について】

夏と冬の二度例祭を行なっている。

夏例祭には御神輿が浜に渡御する儀式があり、その起源は神功皇后が新羅遠征の折、大己貴命を御船に招請された旧事によるものであり、別名浜下り神事と言われている。浜から海水や小石を持ち帰り神社に奉納し、神功皇后の無事のお帰りを祈願したと伝えられるものである。現在でも御輿と太鼓台の練りあいも勇壮な、町内あげての祭りであり、二日目の神輿のお宮入りは特に圧巻である。



夏例祭 神輿のお宮入りの様子

冬例祭は氏子繁栄と家内安全を祈願する祭りである。両日ともに奉納される都農神楽(高鍋神楽)は、「日向高鍋神楽の由来」によると立居振舞が高尚優美、勇壮活発であることから、奈良時代に宮中での御前奉納により、過分ある褒美を賜ったと記されている。平成二十九年には、大正六年に神宮奉納神楽を行ってより、

百年の節目にあたる為、児湯郡内五町協力の下、再度神宮にて奉納神楽を行った。

【御本殿】

旧記によれば、日向国の第一の大社であったが、天正六年(一五七八)の大友・島津の騒乱の際、大友氏の兵火により社殿・宝物・古文書等全てを焼失した。しかしながら、御神体は尾鈴山麓に遷され難を逃れた。争乱後は長年社殿の再興も無く、小さな祠があるのみであったが、元禄五年(一六九二)に高鍋藩主秋月種政が再興し、安政六年(一八五九)には篤志家より社殿の寄付があった。その後社殿の老朽化に伴い、平成十四年(二〇〇二)に「御造営奉賛会」が設立され、平成十九年(二〇〇七)に氏子崇敬者の協力により、現在の社殿が建てられた。



都農神社 御本殿

新川皇大神社

しんかわこうたいじんじや

【鎮座地】

札幌市北区
新川三条十三丁目三番十二号

【御祭神】

天照大御神 豊受大御神
大国主大神 少彦名大神
誉田別大神 三宝荒神

【御由緒】

明治三十七年に建てられ、五角石柱で当時の開拓者三十七名が農耕開拓安全を願い建立され、四年後有志の手により本殿遷座、昭和三十一年新川大改修工事に伴い、現在の地に移り本殿遷座された。



平成 29 年 例大祭の様子

大国主大神・少彦名大神のご縁を頂き人間はもとより、ペット達の病気平癒として、多くの方々がご参拝されています。平成二十八年には出雲大社「平成の大遷宮」に併せ当社社の神輿と北響太鼓が二日間に渡り百六十名参加のもと奉納させて頂きました。又、平成二十五年には神宮のご遷宮に百五十名で奉納、令和二年の明治神宮百年祭にも奉納を予定しております。



平成 28 年 お神輿を担がれる國造様



平成 28 年 出雲大社お神輿奉納の様子

式内 夜比良神社

やひらじんじや

【御祭神】

たつの市揖保町揖保上三九一

【御祭神】

国作大己貴命（大国主命）

【御神紋】

子持ち亀甲に米

【御由緒】

夜比良神社の創建は、千二百年以前と伝えられています。



社伝によれば、出雲国を開拓された大神は、因幡国を経て播磨国に入られ、伊和神社（播磨国一宮：現宍粟市一宮町）に鎮座されたのち、揖

保川を南下され、「播磨国風土記」に記されている粒丘（中臣山・権現山）に留まり、揖保（粒）郡を開拓・平定され、この地にお鎮まりになりました。

これらの故事により、揖保川流域の北部をお護りする伊和神社の社殿は、北向きに建てられ「北方殿」と呼ぶのに対し、揖保川流域の南部をお護りする夜比良神社を「南方殿」と呼ぶようになったと伝えられています。

夜比良神社の拝殿に「南方殿」（写真）の扁額が架けられています。第八十代出雲国造 千家尊福宮司の揮毫によるものです。

また、中世には、下揖保荘の総鎮守として、播磨国の豪族赤松氏の尊崇をあつめ、「神式は赤松政村これを定む」と伝えられ、次の歌が残っています。

やひら手を 取りにし神も

あらましを きねか鼓の

音は絶せぬ

（赤松広秀）



南方殿扁額

「くにたまの会」会員神社異動報告

●名誉宮司就任

吉田 健彦 (栃木県 日光二荒山神社)
大鳥居信史 (東京都 神田神社)
松尾 孝夫 (石川県 氣多大社)

●宮司就任

中麿 輝美 (栃木県 日光二荒山神社)
清水 祥彦 (東京都 神田神社)
三井 孝秀 (石川県 氣多大社)
乾 全宏 (大阪府 保利神社)
安藤 真介 (大分県 日吉神社)
堀田 正裕 (愛知県 津島神社)
加藤 織衛 (岐阜県 阿多由太神社)

「くにたまの会」新役員

副理事長 猿渡 昌盛 (東京都 大國魂神社)
理事 中麿 輝美 (栃木県 日光二荒山神社)

「くにたまの会」顧問委嘱

吉田 健彦 (栃木県 日光二荒山神社)
大鳥居信史 (東京都 神田神社)

「くにたまの会」会員神職帰幽

緒方 久信 (山形県 出羽三山神社)
乾 充宏 (大阪府 保利神社)
安藤 伸 (大分県 日吉神社)
帰幽された方々のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表します。

会員増加の動向と

今後の方針

本年度は、新たに島根県より二社が、加入していただき、由來八幡宮宮司 景山健・布自伎美神社宮司 吉岡惇雄が加わったことにより、島根県は合計三十六社となりました。次いで、兵庫県の三十一社(現在もう一社新規会員神社勧誘中)、北海道の三十社となっております。

現在の会員神社は二四九社となりましたが、まだ少ない県があるようです。

周囲に会員神社が不在であると、入会意志があってもなかなか踏み切れない神社も多いかと思ひます。会員の皆様には地域や県の垣根を越えて、友人・知人などあらゆるご縁のもと、新たな入会神社を募って戴きたくお願い申し上げます。

※我々、事務局の怠慢により会員増加に至っておりませんことをお詫び申し上げます。

くにたまの会事務局

「くにたまの会」

会報ご寄稿のお願い

皆様よりお寄せ頂きました記事や情報を会報に掲載させて頂きます。就きましては、遷座祭・式年祭・特殊神事・地域の伝統行事・身近な出来事等どんな事でも結構でございますので、ご寄稿を賜りますようお願い申し上げます。

送り先

〒六九九一〇七〇一

島根県出雲市大社町杵築東一九五

出雲大社社務所内

「くにたまの会事務局」まで

電話 〇八五二一五二一三〇〇

メール johoh@izumooyashiro.or.jp

※写真を添えてお寄せ下さい。